

いのちの言の葉

「いのちの教育」

魚津市立大町小学校 4 学年児童

富山県教育委員会 平成20年度いのちの教育支援事業 平成20年11月28日実施

「障害も人の個性」

脳性まひで両手が不自由という障害のある中村先生から、絵画制作にかける夢や願い、人とのかかわりの中で生きるすばらしさについて、話をお聞きしました。

中村 薫先生のプロフィール

第2石川整肢学園時代は美術部に所属。脳性まひで両手が不自由なため、足で絵を描いている。25年ほど前から油絵を始め、現在は魚津市の洋画家、菅野純子さんに学んでおり、個展も開いている。

中村さんは強いと思いました。「自分に障害があってもなくても、絵を描いていたと思います」と言っておられたからです。私も「これが好きだから」という思いで取り組んでいきたいです。

中村さんはすごい人だなと思いました。中村さんは絵が好きだから、あんなに練習して上手になったのだと思います。ぼくも中村さんのように、何か目的をもって一つのことに取り組んで上手になりたいです。また、中村さんは、だれとでも仲よくしたいのだと思いました。

【内容】

- (1) 障害者生活支援センターの方の話
- (2) いのちの先生の話
 - ① 脳性まひの説明と略歴
 - ② 行動力にあふれる生活の様子
 - ③ 絵画制作にかける夢や願い
 - ④ 多くの人とのかかわり合い支え合いながら生きる私
- (3) 児童の感想

【成果】

今まで児童らは、「障害のある人はかわいそう。だから自分たちが助けてあげなくては」という思いをもっていた。しかし、中村さんの好きなことに熱心に打ち込む姿や積極的に人と触れ合ったり地域に出かけたりする姿、自分にできることは自分でやろうとする前向きで強い生き方、また、自然体で優しく語りかけてくださる姿に深く心を打たれた。児童は中村さんの真摯で前向きな生き方から、自分自身を振り返り、生き方に生かしているように感じる温かな勇気を実感することができた。

中村さんの「障害も人の個性」という言葉が心に残りました。「歌が下手なのも、走るのが遅いのも、障害も全部個性」というのはすごく心に響きました。私は読書や物語を書くことや小さい子と遊ぶのが好きなので、その好きなことに精一杯打ち込んで、いつか自分が満足できるようなことを中村さんのように一生懸命にやって、自分やいろんな人の毎日を楽しみたいと思います。